

機関番号：32689

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20404019

研究課題名（和文）中国での社区を基盤とした地域改善における参加型の研究手法に関する研究

研究課題名（英文）A study on community planning for area renovation based on “community” in China.

研究代表者

佐藤 滋（SATO SHIGERU）

早稲田大学・理工学術院・教授

研究者番号：60139516

研究成果の概要（和文）：本研究では、中国の過密した都市を対象とし、社区を基盤とした地域改善の可能性として、極めて特徴的な建築・生活様式が混在する高密街区における実態把握の方法論の開発・適合について、中国の大学と協力して調査・分析を行った。本研究は、分析結果に基づいて、住民が自律した地域改善を行うためのスキームや、参加型で空間的調整を行うためのシステム提案など、今後の「参加型」の地域改善への構想と方法論を、現地と協議しながら提案したものであり、中国の都市の超高密複合居住街区を解析するための方法論を開発したものである。

研究成果の概要（英文）：In this study, we studied crowded city to analyze the possibility of community-based area revitalization in uniquely architecture-and-living-standard-mixed dense area in cooperation with universities in China. We make proposals for highly-dense-community's revitalization, such as “autonomic scheme for community” and “system for regulating the area with community” discussing with professionals in China. This is new way of revitalization for Chinese cities with super-highly-dense and mixed-used living environment.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	3,100,000	930,000	4,030,000
2009年度	3,100,000	930,000	4,030,000
2010年度	2,400,000	720,000	3,120,000
年度			
年度			
総計	8,600,000	2,580,000	11,180,000

研究分野：建築学

科研費の分科・細目：都市計画・建築計画

キーワード：中国、コミュニティ、地域改善

1. 研究開始当初の背景

中華人民共和国では、市民参加のまちづくりの黎明期を迎えており、経済発展と、コミュニティの単位である「社区」を中心とした伝統的地域社会、及び都市計画制度の近代化の混在、及び建築・生活様式が混

在する高密街区の中で、市民参加のまちづくりはこれらの葛藤を中和する役割として存在する。中国の市民参加のまちづくりをこの時点で研究する必要がある背景として、今後のまちづくりに影響する、新しい法律の制定が当時相次いでいたことが

挙げられる。このような社会背景の大きな変化の中で、まちづくりにおける市民・住民参加の研究も中国で始まりつつあった。しかし、日本の1960年代の状況と同様に、黎明期にある「市民・住民参加」によるまちづくりに関する研究は中国でも日本でもまだ数少ないのが現状である。今後中央政府が「和諧社会」として社会の調和を考えていく上では、コミュニティを取り込んだまちづくりの手法を考えていく必要性が高まるであろうと考えた。

2. 研究の目的

以上のような背景から、コミュニティの参加に対する社会的背景が変化している現在において、日本の密集市街地と類似した課題を抱えた地域を事例として、物理的な地域改善だけでなく、参加型でまちづくりを考える手法として、今後の中国での市民・コミュニティ参加のまちづくりに示唆を与えるものとして、急速な都市開発によるひずみを抱えた中国の長江デルタ地域において、社区を基盤とした「コミュニティ」参加型の地域改善の方法と、そのための分析方法を開発することを目的とした。

3. 研究の方法

研究の方法として、中国の過密した都市を対象とし、社区を基盤とした地域改善の可能性として、極めて特徴的な建築・生活様式が混在する高密街区における実態把握の方法論の開発・適合について、中国の大学と協力して調査・分析を行った。具体的には以下のように研究を進めていった。

第一に、多様な建築様式からなる超高密複合地区の実態解明のための方法論を検討し、住民のニーズとそれを支える物的環境を解明するため同済大学との共同調査を行った。共同でコミュニティに対するニーズや課題をヒアリングし、分析を行った。

第二に、研究対象地域を設定し、上海市・ティーランチャオ地区を対象として、開発と保存の狭間にある、過密した住宅地の課題をインタビューし、生活像を可視化するためのツールを用いて調査を行った。

第三に、中国での現状実態を把握するために地元専門家との協働して調査分析、研究を行った。同済大学・孫教授、及び浙江大学・華教授と協力し、中国での住民参加の可能性についての資料収集及び議論を行った。

第四に、これらの意識調査、物理的調査、学術論的調査を行った上で、社区を基盤と

した地域改善のあり方のスタディを行った。

4. 研究成果

大学との研究協力関係の確立のもと、杭州市の浙江大学との協働も進めながら、主に同済大学との協力関係の中で上海市の研究を中心として研究を進めてきた。以下研究方法に従ってその成果を述べる。

第一に、住民のニーズを知るための同済大学との共同調査を行った。共同でコミュニティに対するニーズや課題をヒアリングし、分析を行った成果として、住民の地域に対する課題、住み続けたい意識に加えて、コミュニティとコミュニティに対する参加意識を明らかにし、地域改善事例におけるコミュニティの参加動態の解明を行った。ヒアリングは1000件以上にのぼる。この成果として、論文6をまとめた。調査・分析結果として、伝統的居住形態である旧式里弄に住む回答者たちは、住み続けたいという意思が弱いわけではなく、コミュニティへの評価は全体的に高いこともあり、条件次第では住み続けたいと回答した者も多い。この意思に応えるには、文化景観エリアとしての制限を守りながら、居住環境を向上させる必要がある。しかし、旧式里弄のような歴史的建造物は中核的な保護地域に位置することも多く、厳しい制限がかかる場合が多くある。それゆえ、旧式里弄が抱える問題である衛生設備の不備さと、居住面積の狭さなど、保全と改善のバランスをとるのはより困難な状況であるという課題が明らかになった。この基礎的な住民ニーズ調査をベースとして、さらにどのような参加型の地域改善が出来るか検討していった。

第二に、研究対象地域を設定し、地域住民にワークショップ・ツールを用いた調査を行った。調査方法としては、生活環境や生活の行動範囲について、地図の上にシールやメモを用いてそれぞれ生活の範囲を可視化してもらった。また、コミュニティの実態として、共用空間のアクティビティ調査を行った。上海市・ティーランチャオ地区を対象として、開発と保存の狭間にある、過密した住宅地の課題をインタビューし、生活像を可視化するためのツールを用いて調査を行った成果として、住民ニーズのよりきめ細かい把握、抱えている課題、生活像の実態、を明らかにした。この成果は論文1～4にまとめられている。分析の上では、地域改善の実態として、住環境改善事例として、里弄をリノベーションして公共施設とした新天地のように、権利変換や容

積率移転など、インセンティブを活用した民間再開発と、スラム改善として税金が全面的に投入された改修事例と、事業主体によって異なるスキームが存在する。これらのスキームを合わせ、より漸進的な、コミュニティの保全を試みるための住環境改善のあり方を明らかにした。これらの分析を通してインナーシティにおける地域改善主体のスキーム実態を解明した。この調査結果から、学会発表1, 2の中で実態を踏まえた提案を行った。以下具体的な内容について説明する。

参加のスキームを含めた提案を行うために、まず論文5では権利関係の課題について明らかにした。そこで、第一に、提藍橋歴史風貌保全地区及び周辺エリアの住宅所有関係は主に“私房”と“直管公房”であり、この地区の“直管公房”の殆どは独立した衛生設備がなく、複数の住民による共有部分があり、払い下げすることができない現状があるということ、第二に“私房”では明確な権利関係があり、市場で取引される法的な保障があるのに対して、上海市では“直管公房”の使用権の市場の取引は未だに法的担保がないことが地区内の居住環境更新の課題になっていることが課題であることが分かった。また、論文3で空間的視点からは、街区容積率による開発調整の困難さが課題であることも明らかにし、論文2で空間的コミュニティの単位としての「住環境ユニット」という単位を設定し、地域改善のための開発ユニットとテーマの必要性について論じた。また、論文1で「高密度コミュニティ」の中での生活環境についてアクティビティの調査結果を分析し、「住環境ユニット」内でのコミュニティの実態について明らかにした。

これらの調査・分析を踏まえて、地域改善について、参加スキームを考慮して提案を行った。提案では、「デザインシステムの提案」として、開発単位の設定、内部住民による、計画・事業の検討、及び住民参加による「街区組合」による調整を提案し、上海市に対しても実際に提案を行った。

第三に、中国での現状実態を把握するための専門家との協働をおこなった。同済大学・孫教授、及び浙江大学・華教授と協力し、中国での住民参加の可能性についての資料収集及び議論を行った成果として、まず同済大学の協力から、地域基礎情報を収集、及び上海市との複数回にわたる分析成果についての議論を行うことが出来、参加型へのスキームの提案を行うことが出来た。

これらの基礎資料から、里弄などの対象エリアの実態を分析し、現地調査計画の基礎とした。また、浙江大学の華教授を招聘し、日本での現状を示した上で、中国での実態、参加型の展望についての議論を行った。専門家との協働を通して、コミュニティ参加のまちづくりの実態を明らかにした。華教授からは、華教授の現地での実践を踏まえて、市民参加のための組織のあり方についての提案があり、それについての意見交換を行った。

本研究の提案は、中国の都市の超高密度複合居住街区を解析するための方法論の開発と、これを元にした、改善手法の検討であり、そのために本研究のように複眼的にコミュニティの実態に迫り、過密した住居地域に対する調査を行ったものではなく、また、コミュニティ参加という視点からスキームの調査を行ったものもなかった。本研究は、そういった分析結果から、住民が自律した地域改善を行うためのスキームや、空間的な調整のためのシステム提案（住環境ユニット、街区組合）など、今後の「参加型」の地域改善への示唆をよりリアルに行ったものであり、高密度コミュニティを受け入れながらも、今後の開発と保全の間にある過密した中国の都市の改善への「第三の道」を示すものである。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計7件）

1. 牧野あゆみ・趙城埼・内田奈芳美・佐藤滋『上海市における持続的居住環境の再生研究（7）-隣人意識と生活アクティビティから見る「高密度コミュニティ」-』査読無 日本建築学会大会梗概 F-1 分冊、2010年9月 p. 399-400

2. 市川真弓・村松健児・内田奈芳美・趙城埼・真野洋介・佐藤滋『上海市における持続的居住環境の再生研究（6）-旧式里弄住環境ユニットの変容を踏まえた複合的な街区更新像の検討-』査読有 日本建築学会大会選抜梗概 F-1 分冊、2010年9月 p. 9-12

3. 阿部俊彦・野口鮎子・趙城埼・佐藤滋『上海市における持続的居住環境の再生研究（5） 街区単位での容積率コントロールによる街区環境の改善の課題と可能性』査読無 日本建築学会大会梗概 F-1 分冊 2009年9月 p. 277-278

4. 村松健児・飯島縁・真野洋介・内田奈芳美・趙城埼・佐藤滋『上海市における持続的居住環境の再生研究(4) 旧式里弄を中心とした住環境ユニットの抽出と外部空間からみた住環境評価』査読無 日本建築学会大会梗概 F-1 分冊 2009年9月 p. 275-276

5. 趙城埼・内田奈芳美・真野洋介・佐藤滋『上海市における持続的居住環境の再生研究(3) 住宅権利関係の整理と考察』査読無 日本建築学会大会梗概 F-1 分冊 2009年9月 p. 273-274

6. 内田 奈芳美・趙城埼・村松 健児・高橋 克嘉・瀬部 浩司・井ノ上 真太郎・佐藤滋『上海市における持続的居住環境の再生研究(2) -歴史地域での居住環境に対する住民意識-』査読有 日本建築学会大会選抜梗概 F-1 分冊、2009年9月 p. 339-342

7. 趙城埼・内田奈芳美・真野洋介・佐藤滋『上海市における持続的居住環境の再生研究(1) 歴史地域での居住環境の基礎的状况』査読無 日本建築学会大会梗概 F-1 分冊 2008年9月 p. 461-462

[学会発表] (計2件)

1. 瀬部浩司・井上拓哉・井ノ上真太郎・大橋清和・阿部俊彦・内田奈芳美『上海市における歴史的高密度複合街区の再生 その1 再生デザインシステムの提案』日本建築学会大会デザイン発表会、2010年9月 富山大学

2. 越智郁美・井ノ上真太郎・市橋彩子・茂木大樹・阿部俊彦・趙城埼・真野洋介『上海市における歴史的高密度複合街区の再生 その2 アーキタイプを用いた街区更新像』日本建築学会大会デザイン発表会、2010年9月 富山大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 滋 (SATO SHIGERU) 早稲田大学・理工学術院・教授
研究者番号: 60139516

(2) 研究分担者

真野 洋介 (MANO YOSUKE) 東京工業大学・社会理工学研究科・准教授

研究者番号: 70329134

内田 奈芳美 (UCHIDA NAOMI) 金沢工業大学・環境・建築学部・講師・

研究者番号: 10424798

分担者 (H21→H22)

(3) 連携研究者

趙 城埼 (ZHAO CHNGQI) 早稲田大学理工学研究所

連携研究者 (H20→H22)

研究者番号: 30434294

阿部 俊彦 (ABE TOSHIHIKO) 早稲田大学都市地域研究所・客員主任研究員

連携研究者 (H22)

研究者番号: 00608466